

# 神楽坂地区におけるファサード景観と路上アクティビティ実態の関係性に関する研究

BR15040 嶋村文孝

指導教員 鈴木俊治

## 1. 研究背景・目的

### 1-1. 背景・目的

神楽坂地区では新しい建物と古い建物が混在し、それぞれの通りによってファサード景観が大きく異なっている。実際に街を歩いてみると、店舗であっても人が多く立ち止まっている建物と、そうでない建物が見受けられた。ファサードの違いで何が人々を惹きつけているのか、どのようなアクティビティが生まれるのか疑問を抱いた。

神楽坂地区において各通りのファサード景観と路上アクティビティの関係性について調査した既往研究はない。そこで本研究では、ファサード景観によって人々の路上アクティビティに、どのような影響があるのかを明らかにすることにより、今後の都市デザインに活かせることを目的とする。

### 1-2. 研究対象地

対象地は神楽坂通り及びそれに連なる街路沿道の①～⑪の区域とする(図1)

## 2. 研究方法

1. ファサード前のアクティビティ調査を行うにあたって、調査対象地区の建物ファサード立面図を作成した。その図面を基にアクティビティが生まれそうな箇所を予備調査により設定し、調査1,2を行う。

2. ファサード前のアクティビティ調査・分析では、以下の2つを行った。

- (1) 歩行者通行量調査(調査1)
- (2) 滞留時間調査(調査2)

調査結果を基にファサード景観と路上アクティビティの実態と関係性の考察をする。

## 3. 対象地区

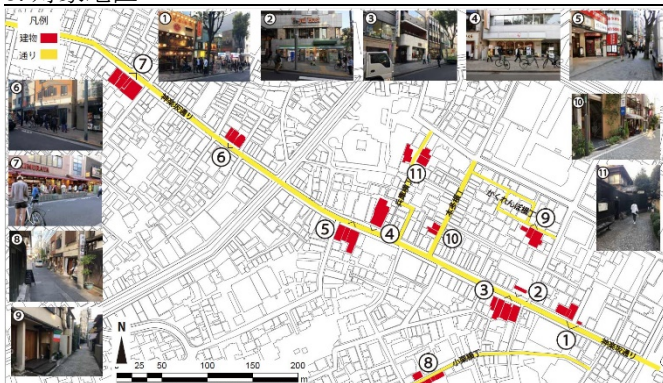


図1 対象地区

### 3-1. 調査1,2を行うにあたって

ファサード景観とアクティビティの関係性について以下の仮説を立てた。以下の条件が揃えば、そこでの滞留型アクティビティが多くなると考えた。

- (1) 歩行者通行量が多い
- (2) 開口部の割合が多い
- (3) 店先にある、もしくは道から見える商品数が多い
- (4) ベンチなど座る場所がある

調査1,2を行うにあたってファサード立面図を作成した(図2)。それぞれの対象建物のファサードを構成要素別に分け面積割合を算出した。このデータを基に通行量や滞留数との関係性を導き出す。(\*1)



図2 構成要素別例

### 3-2. 歩行者通行量調査の結果

①～⑪の11箇所での通行量調査を行った。対象地において各1ヶ所を設定しその地点を通る歩行者、自転車の数を調査。神楽坂通りは道路半分から対象建物側、その他の通りについては道路の全幅員を通過する数をカウントした。計測は1時間ごとに5分間とした。

測定月日	曜日	時間	天気	気温	調査地点
11月2日	土	13~17時	晴れ	18°C	2~11
11月10日	日	13~17時	晴れ	19°C	1~11
12月14日	土	13~17時	晴れ	16°C	2
12月15日	日	13~17時	晴れ	12°C	1~11
12月19日	木	17~21時	曇り	8°C	1,4,5,6,8
12月23日	月	13~17時	晴れ	12°C	1~11

図3 調査実施日

図4~6は全ての地区において調査を行った12月15日のデータより、地点別時間帯推移グラフ、通行方向と男女別の比を求めた。

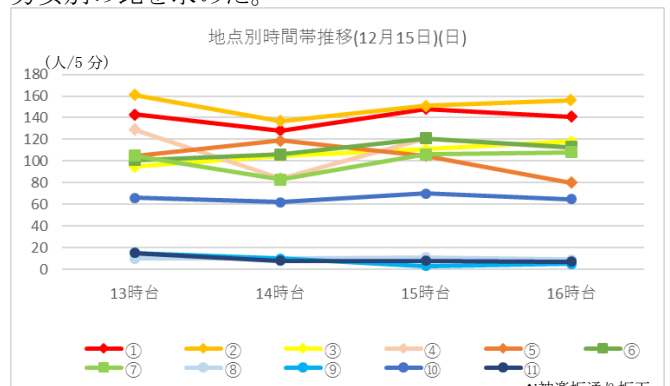


図4 全地点時間帯別歩行者数

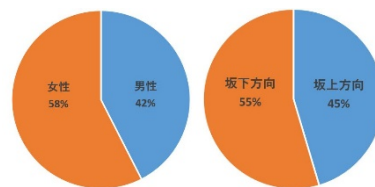


図5 男女別歩行者量

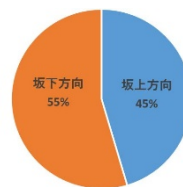


図6 方向別歩行者量

今回の調査で得られた結果で、神楽坂通りの概要は以下のとおり。

・1日の歩行者数を1時間あたりの通行量で平均した結果、両方向、男女合わせての通行量が、全ての計測地点において、100人/5分以上であった。その他の通りと比較すると、神楽坂通りの通行が際立って多かった。

- ・方向別では、通行者数が坂上方向より、坂下方向が1.2倍多かった。
- ・男女別通行者数では、女性が1.35倍多かった。
- ・神楽坂通りの平日と休日の通行者数は、休日のほうが1.33倍多かった。
- ・時間帯の変化による人数増減は見られなかった。
- ・坂下と坂上では坂下の通行者数が多かった。

### 3-3. 滞留時間調査の結果

歩行者通行量調査と日時・場所同じ条件で滞留時間調査を行った。調査時間は30分間とし、各所2回ずつ2時間ごとに行った。1つの建物前でファサード構成要素が異なる場合には、分けて計測した。30秒以上の滞留した場合、滞留としてカウントした。

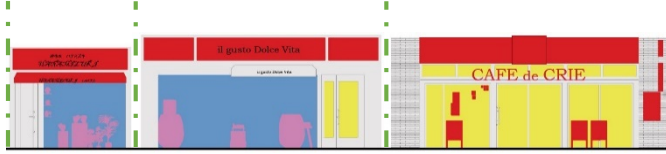


図7 地点⑥のファサード構成

場所	滞留コマ数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1	14																																
2	9																																
3	13																																

図8 地点⑥における滞留時間と人数 1回目

場所	滞留コマ数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1	5																																
2	18																																
3	30																																

図9 地点⑥における滞留時間と人数 2回目

一回目と二回目と比較すると、建物2の場所での滞留数が大幅に増えていた。二回目の時、建物前で実演販売が行われていた。人々は店頭販売プロモーションがあると興味を持ち、滞留しやすくなることがわかった。

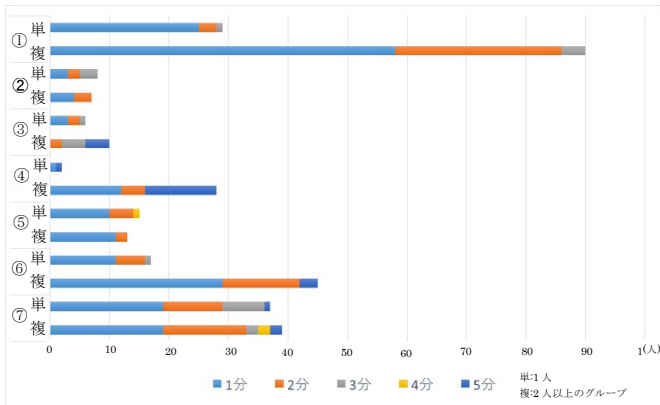


図10 各地点の滞留数と時間

今回の調査で得られた結果で神楽坂通りの概要は次の通り。

- 滞留は、1人より2人以上のグループが多く、商品を見ながら会話している人が、ほとんどであった
- 店舗前のイベントや商品が多い地点1での滞留が、1番多かった。
- 滞留した人々の多くは、1~2分間の滞在がほとんどであった。
- 建物前で商品を購入出来る場所、飲食できる場所に、滞留が多く見受けられた。
- 今回の調査では、神楽坂通り以外の通りでは、滞留が見受けられなかった。

### 3-4. ファサード景観と路上アクティビティの関係性

歩行者通行量調査と、滞留時間調査から得られた結果を基に、仮説(1)~(4)の検証を行う。検証を行うにあたって、各建物のファサード景観構成要素の割合をグラフ化したものを用いて、比較を行う。

滞留数は各地点で測定した、週末の全調査平均値を記載した。(図11)

地点	①				②				③				④				⑤				⑥				⑦			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
A	70	30	34	33	25	52	35	40	52	26	14	47	5	33	40	40	33	40	40	33	40	43	30	40	43	30	40	43
B	4	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	11	8	0	36	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	0	0	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
T	74	30	34	43	25	58	35	40	61	28	14	47	5	44	48	40	69	47	52	26	47	5	26	47	52	26	47	52
滞留(人/30min)	39	50	13	7	16	1	9	6	5	13	7	4	16	18	47	2	47	5	26	47	52	26	47	52	26	47	52	26

図11 景観構成要素割合と滞留

A:開口部の割合 B:店先にある、もしくは道から見える商品数の割合  
C:ベンチなど座る場所の割合 T:A~Cの合計割合

仮説(1)~(4)を1つずつ検証した。

(1)歩行者通行量が多い(図4)

歩行者通行量の多かった順は、地点②→①→④であったのに対し、滞留数が多かった順は、地点①→⑥→⑦であった。このことから、歩行者通行量と滞留数は比例の関係にあるとは言えないことが分かった。

(2)開口部の割合が多い

開口部は店頭販売などのイベントを行う際に必要であることが分かった。また、開口部があることにより店内の様子が見えるため、歩行中に店内を見て、興味を示すことがあることが分かった。

(3)店先にある、もしくは道から見える商品数が多い

商品があると、滞留が比較的多かった。ただ、商品がある場所でも、商品内容によって、滞留の多い少ないに関わっていることも分かった。

(4)ベンチなど座る場所がある。

今回の調査対象地点では、座る場所は歯医者とベローチェの建物前であった。しかし、飲食できる場ではベンチが使用されていたのに対し、歯医者前ではほとんど使われていなかった。このことから、ベンチをただ置くだけでは使用されないことが分かった。

### 4. SDGs -ファサードの構成とアクティビティの関係性-

8 良質な生活環境を実現しよう  
本研究ではファサード景観と路上アクティビティとの関連性の追求を試みた。今後の街づくりを行う際に活かせると考える。

11 住み続けられるまちづくりを  
居住するにあたって、アクティビティが増え充実した生活となるようにしたい。SDGs8番と11番の実現を目指す。

### 5. まとめ

ファサード景観と路上アクティビティには何かしらの関係性があると考え、本研究を行い、現時点では、店先にある、もしくは道から見える商品数によって人々は興味を持つ可能性が高いことが分かった。

さらに、歩行者通行量が多いからといって、単純に人々の滞留数が増えるのではないことが分かった。

今回の調査では、各地点の店舗数が異なったため、それが結果に影響しているかもしれない。また、高さをそろえるために、1Fレベルまでの調査としたため、建物全体を調査対象としたときの結果を出すことも必要であると思う。それらの点を考慮しながら、ファサード景観とアクティビティについて今後さらに追及することが必要である。

### 6. 参考文献

・宮路敦寛「神楽坂1~5丁目における屋外広告物が街並み景観に及ぼす影響に関する研究」(出典：芝浦工業大学修士論文(2018))

\*1:本研究は鈴木研究室において嶋村も中心メンバーの一人として取り組んだプロジェクトの一部であり、3-1等で使用した景観分析調査については、共同研究者であるBR16044 佐野 翔が、代表して研究をまとめて発表する。